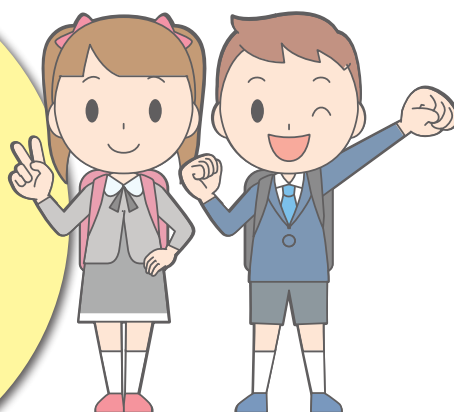


基本目標 1
学校での
教育の推進



基本目標 1 学校での教育の推進



基本的施策 1 「確かな学力」を身に付けた児童・生徒の育成

整理番号	想定される事業	事業区分（評価）		新規・継続・廃止
		計画策定時	中間評価	
1-1-1	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ります。	A	A	継続
1-1-2	思考力・判断力・表現力の育成を図ります。	B	A	継続
1-1-3	学習意欲の向上や学習習慣の確立を図ります。	A	A	継続
1-1-4	小中学校9年間を見通し、発達の段階を踏まえた学力の育成を図ります。	A	A	継続
1-1-5	外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ります。	A	B	継続
1-1-6	個別の教育的ニーズに対応した特別支援教育の充実を図ります。	B	B	継続

整理番号 1－1－1		基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ります					担当課 学校教育課	
事業区分（評価）			具体的な取組みの例					
計画策定時		中間評価		●少人数学級の編成 ●習熟度別少人数授業の実施 ●算数定着度調査の実施				
A		A						
成果指標	指 標 名		単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明	
	1日1時間以上勉強する（小6）		%	65	72	80	全国学力・学習状況調査	
	1日1時間以上勉強する（中3）		%	26	63	70 (40から変更)	全国学力・学習状況調査	
これまでの課題等				今後の方向性				
理解や定着に時間を要する児童生徒に対する個別の指導を進める必要があります。成果指標の中学校第3学年の目標値については、現状値が当初の目標値を既にクリアしているので、上方修正しました。				個に応じた指導の充実を図るために個々の取組を今後も継続していきます。				
平成28年度の実績								
夏季休業中の補充学習の実施状況				7校全学年3日間				
学生ボランティアの活用状況				7校				
習熟度別少人数授業の実施状況				小学校4校（算数科） 中学校2校（数学科・英語科）				

整理番号 1-1-2	思考力・判断力・表現力の育成を図ります						担当課 学校教育課
事業区分（評価）			具体的な取組みの例				
計画策定時		中間評価		●算数・数学教育の推進 ●調べる学習コンクールの実施			
B		A					
成果指標	指 標 名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明	
	調べる学習コンクールの応募数	人	—	471	650	学校教育課調べ	
これまでの課題等				今後の方向性			
思考力・判断力・表現力を育成するための取組を組織的・継続的に進める必要があります。				思考力・判断力・表現力を育成するための授業改善を進めるとともに、調べる学習コンクールの取組などを通して、思考力・判断力・表現力を発揮する場を提供していきます。			
平成28年度の実績							
主な入賞者（全国第20回図書館を使った調べる学習コンクール）							
・優良賞 中学生の部 1名							
・奨励賞 小学生の部 2名							
・佳 作 小学生の部 4名							
中学生の部 2名							



図書室の図書を使った調べる学習



保護者と一緒に調べる学習チャレンジセミナー

整理番号 1-1-3		学習意欲の向上や学習習慣の確立を図ります					担当課 学校教育課	
事業区分（評価）			具体的な取組みの例					
計画策定時		中間評価		●家庭学習の手引きの作成・配布 ●学年×10分間の家庭学習時間の設定				
A		A						
成果指標	指 標 名		単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明	
	家で、自分で計画を立てて勉強する（小6）		%	—	58	70	全国学力・学習状況調査	
	家で、自分で計画を立てて勉強する（中3）		%	—	46	60	全国学力・学習状況調査	
これまでの課題等				今後の方向性				
家庭学習の習慣化を図るとともに児童生徒が主体的に家庭学習に取り組む指導を充実する必要があります。				主体的に学習を進められるような学習方法について検討し、各学校で指導の改善を図られるよう取組を継続していきます。				



整理番号 1-1-4	小中学校9年間を見通し、発達の段階を踏まえた学力の育成を図ります					担当課 学校教育課
事業区分(評価)		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価	●発達の段階に応じた「聞くこと」のめざす姿の設定・指導				
A	A					
成果指標	指標名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる(小6)	%	—	46	70	全国学力・学習状況調査
	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる(中3)	%	—	46	70	全国学力・学習状況調査
これまでの課題等			今後の方向性			
学習規律としての聞くことの徹底を図ることは徐々にできてきているので、聞く力の向上の指導を充実させる必要があります。			学習規律と関連付けながら発達の段階に応じた「聞くこと」のめざす姿の指導を充実させ、聞く力の向上のための取組を継続していきます。			
平成28年度の実績						
「9年間を見通した生徒指導」(抜粋)						
1. 人の話を聞く						
小 学 校			中 学 校			
低 学 年	中 学 年	高 学 年				
正しい姿勢で、相手を見て話を聞く。	相手の話を最後まで聞く。	相手の話を反応しながら聞く。	相手の話を聴き、問い返したり深めたりできる。			

整理番号 1-1-5	外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ります					担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価	●小中学校へのALT（外国語指導助手）の配置				
A	B					
成果指標	指標名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	外国人講師配置事業	人	3	4	5	学校教育課調べ
これまでの課題等			今後の方向性			
より一層コミュニケーション能力の向上を目指した取組を推進させる必要があります。			小学校高学年での英語科及び中学年での外国語活動の全面実施に向けて、ALTの増員を目指します。 児童生徒のコミュニケーションを図ろうとする意欲やコミュニケーション能力を高めるため、外国語指導に関する研修や施策を新たに展開していきます。			
平成28年度の実績						
ALT任用数 ・小学校 2名 ・中学校 2名（平成28年度より1名増員することにより、各月の配置から両校常駐へと改善）						

整理番号 1-1-6	個別の教育的ニーズに対応した特別支援教育の充実を図ります					担当課 学校教育課
事業区分(評価)		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価	●特別支援教育支援員の配置及び研修 ●なかよし教室の開催				
B	B					
成果指標	指標名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	特別支援教育支援員の配置数	人	7	19	25 (14から変更)	学校教育課調べ
これまでの課題等			今後の方向性			
児童生徒数の増加に伴い、個別の教育的支援が必要な児童生徒を支援するための人材確保が必要です。成果指標の目標値については、現状値が当初の目標値を既にクリアしているので、上方修正しました。			個別の教育的支援が必要な児童生徒への支援が効果的なものとなるよう、特別支援教育支援員への研修等により支援体制づくりを強化していくとともに、早期に保護者と情報を共有しながら個別の教育支援ができるよう、発達相談センターとの連携も充実させていきます。			
平成28年度の実績						
特別支援教育支援員の配置数						
		配置数(人)				
小 学 校		16				
中 学 校		3				
合 計		19				

基本目標 1 学校での教育の推進



基本的施策 2 関わりの中で豊かな人間性を育てる教育の推進

整理番号	想定される事業	事業区分（評価）		新規・継続・廃止
		計画策定時	中間評価	
1-2-1	規範意識や他人を思いやる心を育む道德教育を推進します。	B	B	継続
1-2-2	他人にやさしい人づくりを育む人権教育を推進します。	B	A	継続
1-2-3	環境にやさしい人づくりを育む環境教育の充実を図ります。	B	B	継続
1-2-4	生徒指導連絡協議会の開催など、生徒指導の充実を図ります。	A	B	継続
1-2-5	福祉やボランティア活動に関する意識の高揚を図ります。	A	A	継続
1-2-6	情報リテラシー教育の充実を図ります。	B	B	継続
1-2-7	特別支援学校との交流を推進します。	B	B	継続
1-2-8	深圳小学（中国深圳市）との教育交流を通じた国際理解教育を推進します。	A	A	継続

整理番号 1－2－1		規範意識や他人を思いやる心を育む道德教育を推進します					担当課 学校教育課	
事業区分（評価）			具体的な取組みの例					
計画策定時		中間評価		●道德教育全体計画に即した教育活動の展開 ●児童生徒の地域活動への参加促進 ●いしかわ道德推進事業の取組				
B		B						
成果指標	指 標 名		単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明	
	人が困っている時、進んで助ける		%	76	79.5	90	全国学力学習状況調査	
これまでの課題等				今後の方向性				
各学校での道德教育が行われていく中で、今後は、児童生徒が地域での体験活動にも積極的に関わっていく必要があります。				特別の教科道德の授業の指導及び評価がよりよいものとなるよう、研究推進校の研究成果を市全体の学校に普及・啓発を図るとともに、地域・家庭との連携を深めるため、大人と子どもが共に参加する活動を通して体験的に学ぶ学習を更に充実していきます。				
これまでの実績								
いしかわ道德推進事業推進校 ・平成26年度 富陽小学校 ・平成27年度 菅原小学校、布水中学校 ・平成28年度 野々市小学校 ・平成29年度 御園小学校								

整理番号 1-2-2	他人にやさしい人づくりを育む人権教育を推進します	担当課 学校教育課								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業区分(評価)</th> </tr> <tr> <th>計画策定時</th> <th>中間評価</th> </tr> <tr> <td>B</td> <td>A</td> </tr> </table>		事業区分(評価)		計画策定時	中間評価	B	A	<table border="1"> <tr> <th>具体的な取組みの例</th> </tr> <tr> <td> ●市子ども憲章の活用 ●子ども議会の開催 ●人権教育全体計画・年間計画の作成 </td> </tr> </table>	具体的な取組みの例	●市子ども憲章の活用 ●子ども議会の開催 ●人権教育全体計画・年間計画の作成
事業区分(評価)										
計画策定時	中間評価									
B	A									
具体的な取組みの例										
●市子ども憲章の活用 ●子ども議会の開催 ●人権教育全体計画・年間計画の作成										
<table border="1"> <tr> <th>これまでの課題等</th> </tr> <tr> <td>市子ども憲章の認知度の向上を目指します。</td> </tr> </table>		これまでの課題等	市子ども憲章の認知度の向上を目指します。	<table border="1"> <tr> <th>今後の方向性</th> </tr> <tr> <td>ふるさと教育と連携させ、市子ども憲章の活用を促していきます。</td> </tr> </table>	今後の方向性	ふるさと教育と連携させ、市子ども憲章の活用を促していきます。				
これまでの課題等										
市子ども憲章の認知度の向上を目指します。										
今後の方向性										
ふるさと教育と連携させ、市子ども憲章の活用を促していきます。										

野々市市 子ども憲章

一 わたしたちは 自分から元氣よく
笑顔であいさつをします

一 わたしたちは 思いやりの心をもち
人とのつながりを大切にします

一 わたしたちは 何事にも挑戦し
あきらめずにやりとげます

一 わたしたちは みんなのために
役に立つ行動をします

一 わたしたちは 地域の伝統を大切にし
新たな歴史をつくります

野々市市 子ども憲章



子ども議会

整理番号 1-2-3	環境にやさしい人づくりを育む環境教育の充実を図ります	担当課 学校教育課								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業区分(評価)</th> </tr> <tr> <th>計画策定時</th> <th>中間評価</th> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>		事業区分(評価)		計画策定時	中間評価	B	B	<table border="1"> <tr> <th>具体的な取組みの例</th> </tr> <tr> <td>●太陽光発電システムの設置</td> </tr> </table>	具体的な取組みの例	●太陽光発電システムの設置
事業区分(評価)										
計画策定時	中間評価									
B	B									
具体的な取組みの例										
●太陽光発電システムの設置										
<table border="1"> <tr> <th>これまでの課題等</th> </tr> <tr> <td>太陽光発電システムを学習に活用することが求められます。</td> </tr> </table>		これまでの課題等	太陽光発電システムを学習に活用することが求められます。	<table border="1"> <tr> <th>今後の方向性</th> </tr> <tr> <td>各教科等との関連を図りながら、環境教育を進めていけるようにします。</td> </tr> </table>	今後の方向性	各教科等との関連を図りながら、環境教育を進めていけるようにします。				
これまでの課題等										
太陽光発電システムを学習に活用することが求められます。										
今後の方向性										
各教科等との関連を図りながら、環境教育を進めていけるようにします。										

整理番号 1-2-4	生徒指導連絡協議会の開催など、生徒指導の充実を図ります		担当課 学校教育課																
<table><tr><th colspan="2">事業区分（評価）</th></tr><tr><th>計画策定時</th><th>中間評価</th></tr><tr><td>A</td><td>B</td></tr></table>		事業区分（評価）		計画策定時	中間評価	A	B	<table><tr><th colspan="2">具体的な取組みの例</th></tr><tr><td colspan="2">●市生徒指導連絡協議会の開催 ●市生徒指導主事会議の開催 ●市いじめ防止基本方針の策定</td></tr></table>		具体的な取組みの例		●市生徒指導連絡協議会の開催 ●市生徒指導主事会議の開催 ●市いじめ防止基本方針の策定							
事業区分（評価）																			
計画策定時	中間評価																		
A	B																		
具体的な取組みの例																			
●市生徒指導連絡協議会の開催 ●市生徒指導主事会議の開催 ●市いじめ防止基本方針の策定																			
<table><tr><th colspan="2">これまでの課題等</th></tr><tr><td colspan="2">いじめ問題について迅速に適切に対応している体制を強化する必要があります。</td></tr></table>		これまでの課題等		いじめ問題について迅速に適切に対応している体制を強化する必要があります。		<table><tr><th colspan="2">今後の方向性</th></tr><tr><td colspan="2">家庭・地域・関係機関と連携し、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止が図れるよう組織的な対応を進めていきます。</td></tr></table>		今後の方向性		家庭・地域・関係機関と連携し、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止が図れるよう組織的な対応を進めていきます。									
これまでの課題等																			
いじめ問題について迅速に適切に対応している体制を強化する必要があります。																			
今後の方向性																			
家庭・地域・関係機関と連携し、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止が図れるよう組織的な対応を進めていきます。																			
<table><tr><th colspan="4">平成28年度の実績</th></tr><tr><td colspan="2">市生徒指導連絡協議会</td><td>開催数</td><td>3回</td></tr><tr><td colspan="2">市生徒指導主事会議</td><td>開催数</td><td>8回</td></tr><tr><td colspan="2">市いじめ防止基本方針策定</td><td></td><td>平成29年2月</td></tr></table>				平成28年度の実績				市生徒指導連絡協議会		開催数	3回	市生徒指導主事会議		開催数	8回	市いじめ防止基本方針策定			平成29年2月
平成28年度の実績																			
市生徒指導連絡協議会		開催数	3回																
市生徒指導主事会議		開催数	8回																
市いじめ防止基本方針策定			平成29年2月																

整理番号 1ー2ー5	福祉やボランティア活動に関する意識の高揚を図ります					担当課 学校教育課
事業区分（評価）			具体的な取組みの例			
計画策定時		中間評価		●子どもと大人のまちぐるみ美化清掃参加の呼びかけ ●部活動単位での施設訪問活動		
A		A				
成果指標	指 標 名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか（小6）	%	—	59	70	全国学習状況調査
	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか（中3）	%	—	84	90	全国学習状況調査
これまでの課題等				今後の方向性		
中学校部活動のボランティア活動の取組が徐々に積極的に行われるようになってきました。				地域社会と連携しながら、ボランティア活動の推進を図り、地域の活動への参画意識の高揚に結び付くようにします。		

整理番号
1-2-6

情報リテラシー教育の充実を図ります

担当課
学校教育課

事業区分(評価)

計画策定時

中間評価

B

B

具体的な取組みの例

- 9年間を見通した情報モラル教育の推進
- ネット対策教室の実施(小学3年・5年・中学1年・3年)
- ICTコーディネータ研修会の実施

これまでの課題等

ネット接続端末を所持する児童生徒は増加しているものの、スマートフォンの所持率の増加には、一定の歯止めが効いています。

今後の方向性

関係機関と連携し、保護者への啓発活動にも取り組んでいきます。

平成28年度の実績

野々市市 9年間を見通した情報モラル教育指導計画

H23.4.1発行

	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
めざす子どもの姿	きまりや約束を守り、自分や他人の情報を大切に行動できる子	自分や他人の情報を大切に、情報社会でのルールやマナーを守って行動できる子	情報社会でのルールやマナーを守り、発信する情報や行動に責任の持てる子	情報社会でのルールを守り、法律や権利を尊重しながら情報社会に参画する子
情報社会の倫理	☐ 約束やきまりを守る ・うそをついたりごまかしたりしない ・みんなが決められた約束やきまりを守る ・コンピュータなどを使う時、決められたルールを守る	☐ 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ ・相手への影響を考えて行動する ・受け手の気持ちを考えて情報発信をする ・ネットワークなどで誹謗中傷はしない	☐ 他人や社会への影響を考えて行動する ・相手の状況を踏まえて情報発信をする ・ネット上の迷惑行為について知る ・チェーンメールが社会に与える影響を知る	☐ 情報社会への参画において責任ある態度で臨み義務を果たす ☐ 情報社会における自分の責任や義務について考え行動する ・ネット上の迷惑行為を行わないようにする
日常モラルの指導	☐ 人の作ったものを大切にすることを ・みんなが使ったものを大切に ☐ 家族の役に立つ喜びを知る ・お家の人と楽しく過ごし、進んで手伝いをする ☐ 家族とのコミュニケーションを楽しむ ・ノーテレビノーゲームデーなどで家族とのコミュニケーションを楽しむ	☐ 情報に関する自分や他者の権利を尊重する ・自分の情報や他人の情報を大切に ・他の人とのかわり方を大切にする ・情報の提供に対し、感謝と助け合いの心を持つ ☐ 家族と積極的にコミュニケーションをとる ・ノーテレビノーゲームデーなどで家族とコミュニケーションを積極的に図る	☐ 情報にも自他の権利があることを知り尊重する ・自分と異なる意見や立場を尊重する ☐ 家族とのコミュニケーションの大切さがわかる ・家族の一員としての自覚を持ち、ノーテレビノーゲームデーなどで家族とコミュニケーションを図る	☐ 情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する ☐ 個人情報を尊重する ☐ 著作権などの知的財産権を尊重する ☐ コミュニケーションを図ることや家族との絆を自覚する ・家族の一員としての自覚を持ち、ノーテレビノーゲームデーなどで家族とのコミュニケーションを大切に、充実した家庭生活を築く
法の理解と遵守	☐ 情報のやりとりをする場合のルール・マナーを知り守る ・取材を行う際のルールやエチケットを知り守る ・確かな情報を伝えようとする態度を養う	☐ 情報社会でのルール・マナーを遵守できる ☐ 情報のやりとりをする場合のルール・マナーを知り守る ・ルールやエチケットを守らない例を知り何がよくないのか考える ☐ きまりを守ることの社会的な意味を知り尊重する ・ルールがなかったらどうなるか考える ☐ 契約行為の意味を知り勝手な判断で行わない ・子どもだけで売ったり買ったりしない ・「はい」「同意」のボタンはむやみに押さない	☐ ルール・マナーに反する行為を知り行わない ・ルールやエチケットを守らない例を知り何がよくないのか考える ☐ きまりを守ることの社会的な意味を知り尊重する ・ルールがなかったらどうなるか考える ☐ 契約行為の意味を知り勝手な判断で行わない ・子どもだけで売ったり買ったりしない ・「はい」「同意」のボタンはむやみに押さない	☐ 社会性ルール・法を守られていることを知る ☐ 違法な行為を知り、そのような行為は絶対に行わない ・詐欺、誹謗・中傷、出会い系、不正アクセス、薬物等
安全への知恵	☐ 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる ☐ 大人と一緒に使い危険に近づかない ・子どもだけでインターネットを利用しない ☐ 不適切な情報に出会わない環境で利用する	☐ 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる ☐ 危険に出会った時は大人と一緒に対応する ・見知らぬ人からのメールは大人に知らせる ・変なメッセージを受け取ったら大人に知らせる ☐ 不適切な情報に出会った時は大人と一緒に対応する ・情報の中にはモラルに反したものと誤ったものがあること知る ☐ 携帯電話やスマートフォンは便利な反面、危険があることを知る	☐ 危険を予測して避ける ・ネットで知り合った人に子どもだけで会わない ・出会い系、コミュニティサイト、なりすまし、詐欺などの犯罪を知り避ける方法を学ぶ ・犯罪に巻き込まれない方法を学ぶ ☐ 不適切な情報であるものを認識し対応できる ・迷惑メールや危険なメールに対する知識を身に付ける ・フィルタリングによって不適切な情報や危険な情報に近づかない方法があることを知る ・匿名性の利点と危険性を知る	☐ 危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する ☐ 安全性の面から情報社会の特性を理解する ・何がどのように危険か知る ・中学生が遭遇しやすいような犯罪の手口を知り、巻き込まれないようにする ・ネットワーク上の相手は、必ずしも現実と同一でないことを知る
情報モラルの指導	☐ 情報を正しく安全に利用することに努める ・情報は信じたものがあることにも気づく ・情報を偽りや虚偽にしない	☐ 情報を正しく安全に利用することに努める ・情報は信じたものがあることにも気づく ・情報を偽りや虚偽にしない	☐ 情報の正確さを判断する方法を知る ・受け取った情報だけを信じて判断せず、別の方法で確かめる ☐ ネットなどにおいても個人情報や第三者に漏らさない ・ネットなどで簡単に個人情報を入力してはいけなことを知る	☐ 情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける ☐ 情報の信頼性を判断できる ・情報の出典などを意識し、情報の信頼性を判断する方法を知る
情報セキュリティ	☐ 安全や健康を害するような行動を抑制できる ・健康を意図して利用時間を決められること ・テレビやゲーム、インターネットの使用時間が成長に及ぼす影響を知る	☐ 安全や健康を害するような行動を抑制できる ・健康を意図して利用時間を決められること ・テレビやゲーム、インターネットの使用時間が成長に及ぼす影響を知る	☐ 健康を害するようなメディアを避けることができる ・大人と決めたルールを守って、インターネットなどを利用する ・ネット上の不適切なサイトやゲームなどを利用しない	☐ 自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる ・健康に配慮し、情報メディアとのかかわりを受動的に行動できる ・ネット上の不適切なサイトやゲームなどを利用しない

整理番号 1-2-7	特別支援学校との交流を推進します		担当課 学校教育課								
<table><tr><th colspan="2">事業区分（評価）</th></tr><tr><th>計画策定時</th><th>中間評価</th></tr><tr><td>B</td><td>B</td></tr></table>		事業区分（評価）		計画策定時	中間評価	B	B	<table><tr><th>具体的な取組みの例</th></tr><tr><td>●心の教育推進事業（明和特別支援学校との交流）</td></tr></table>		具体的な取組みの例	●心の教育推進事業（明和特別支援学校との交流）
事業区分（評価）											
計画策定時	中間評価										
B	B										
具体的な取組みの例											
●心の教育推進事業（明和特別支援学校との交流）											
<table><tr><th>これまでの課題等</th></tr><tr><td>居住地校交流を進めるための学校間の情報共有を進める必要があります。</td></tr></table>		これまでの課題等	居住地校交流を進めるための学校間の情報共有を進める必要があります。	<table><tr><th>今後の方向性</th></tr><tr><td>交流及び共同学習を通して、双方の児童生徒にとって学びの実感のある交流になるよう活動を更に充実していきます。</td></tr></table>		今後の方向性	交流及び共同学習を通して、双方の児童生徒にとって学びの実感のある交流になるよう活動を更に充実していきます。				
これまでの課題等											
居住地校交流を進めるための学校間の情報共有を進める必要があります。											
今後の方向性											
交流及び共同学習を通して、双方の児童生徒にとって学びの実感のある交流になるよう活動を更に充実していきます。											
<table><tr><th>平成28年度の実績</th></tr><tr><td>明和特別支援学校との交流及び共同学習の実施状況 ・ 学校間及び居住地交流 小学校 2 校 ・ 学校間交流 中学校 1 校</td></tr></table>				平成28年度の実績	明和特別支援学校との交流及び共同学習の実施状況 ・ 学校間及び居住地交流 小学校 2 校 ・ 学校間交流 中学校 1 校						
平成28年度の実績											
明和特別支援学校との交流及び共同学習の実施状況 ・ 学校間及び居住地交流 小学校 2 校 ・ 学校間交流 中学校 1 校											



整理番号 1-2-8	深圳小学（中国深圳市）との教育交流を通じた国際理解教育を推進します。		担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例	
計画策定時	中間評価	●深圳小学との交流	
A	A		
これまでの課題等		今後の方向性	
交流の継続により、相互理解の高まりが見られます。		交流人数や対象の拡大について検討していきます。	



平成28年度 ホームステイ家族との対面式

基本目標 1 学校での教育の推進



基本的施策 3 教育指導体制の充実と教職員の資質向上

整理番号	想定される事業	事業区分（評価）		新規・継続・廃止
		計画策定時	中間評価	
1-3-1	小学校と中学校の一貫した教育課程の作成を進めます。	B	A	継続
1-3-2	小学校と中学校が連携した生徒指導の充実を図ります。	A	A	継続
1-3-3	小・中・高校と幼稚園・認定こども園・保育園の職員を含めた連携事業および交流を推進します。	B	A	継続
1-3-4	授業公開や研究協議などにより校種間交流の推進を図ります。	A	A	継続
1-3-5	今日的な教育課題に対応した指導体制の充実を図ります。	B	B	継続
1-3-6	地域や児童生徒の実態をふまえた特色ある学校づくりを推進します。	A	A	継続
1-3-7	教職員の資質向上に資する教育センター機能の充実を図ります。	B	A	継続
1-3-8	教職員の自主研究への支援を図ります。	A	A	継続

整理番号 1-3-1	小学校と中学校の一貫した教育課程の作成を進めます	担当課 学校教育課								
<table><tr><th colspan="2">事業区分（評価）</th></tr><tr><td>計画策定時</td><td>中間評価</td></tr><tr><td>B</td><td>A</td></tr></table>		事業区分（評価）		計画策定時	中間評価	B	A	<table><tr><th>具体的な取組みの例</th></tr><tr><td>●市教育課程の基準の作成</td></tr></table>	具体的な取組みの例	●市教育課程の基準の作成
事業区分（評価）										
計画策定時	中間評価									
B	A									
具体的な取組みの例										
●市教育課程の基準の作成										
<table><tr><th>これまでの課題等</th></tr><tr><td>市の基準を基にそれぞれの学校でカリキュラムの作成は行われていますが、児童生徒や地域の実態に応じたカリキュラムに改善していく必要があります。</td></tr></table>		これまでの課題等	市の基準を基にそれぞれの学校でカリキュラムの作成は行われていますが、児童生徒や地域の実態に応じたカリキュラムに改善していく必要があります。	<table><tr><th>今後の方向性</th></tr><tr><td>新学習指導要領に伴って、各学校で適切にカリキュラム・マネジメントが行われるよう、市の基準も見直していきます。</td></tr></table>	今後の方向性	新学習指導要領に伴って、各学校で適切にカリキュラム・マネジメントが行われるよう、市の基準も見直していきます。				
これまでの課題等										
市の基準を基にそれぞれの学校でカリキュラムの作成は行われていますが、児童生徒や地域の実態に応じたカリキュラムに改善していく必要があります。										
今後の方向性										
新学習指導要領に伴って、各学校で適切にカリキュラム・マネジメントが行われるよう、市の基準も見直していきます。										

整理番号 1-3-2	小学校と中学校が連携した生徒指導の充実を図ります		担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例	
計画策定時	中間評価		
A	A	●市生徒指導主事会議の開催 ●9年間を見通した生徒指導 ●中学校入学前の情報交換	
これまでの課題等		今後の方向性	
中1ギャップへの対応、不登校児童生徒についての情報引き継ぎ等により、不登校の減少を目指した取組が進んでいましたが、小学校における不登校を増やさないことが新たな課題です。		今後も小学校と中学校の連携のみならず、学校と教育委員会（教育センター）や関係機関との連携を継続していきます。	
平成28年度の実績			
市生徒指導主事会議の開催数 8回			

整理番号 1-3-3	小・中・高校と幼稚園・認定こども園・保育園の職員を含めた連携事業および交流を推進します。		担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例	
計画策定時	中間評価		
B	A	●幼保と小中の保育参加及び研修会の実施 ●1年生と年長児との交流会の実施	
これまでの課題等		今後の方向性	
幼稚園・認定こども園・保育園から小学校への接続において、情報交換を深め、小1プログラムへの対応を図る必要があります。		就学の前後で情報交換する等、今後も連携に向けた取組の継続を図ります。	
平成28年度の実績			
幼保と小中の保育参観及び研修会の実施 ・ 7月27日 ふじひら保育園 29名参加（幼保10, 小17, 中1） ・ 8月 2日 美郷保育園 28名参加（幼保8, 小17, 中3） 1年生と年長児との交流会の実施 小学校5校			

整理番号 1-3-4	授業公開や研究協議などにより校種間交流の推進を図ります		担当課 学校教育課								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業区分（評価）</th> </tr> <tr> <th>計画策定時</th> <th>中間評価</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table>		事業区分（評価）		計画策定時	中間評価	A	A	<table border="1"> <tr> <th>具体的な取組みの例</th> </tr> <tr> <td>●小中交流会の開催</td> </tr> </table>		具体的な取組みの例	●小中交流会の開催
事業区分（評価）											
計画策定時	中間評価										
A	A										
具体的な取組みの例											
●小中交流会の開催											
<table border="1"> <tr> <th>これまでの課題等</th> </tr> <tr> <td>授業を参観する機会を増やす必要があります。</td> </tr> </table>		これまでの課題等	授業を参観する機会を増やす必要があります。	<table border="1"> <tr> <th>今後の方向性</th> </tr> <tr> <td>学校公開期間に相互に授業参観を促すなどして、これからも学校間の連携を促していきます。</td> </tr> </table>		今後の方向性	学校公開期間に相互に授業参観を促すなどして、これからも学校間の連携を促していきます。				
これまでの課題等											
授業を参観する機会を増やす必要があります。											
今後の方向性											
学校公開期間に相互に授業参観を促すなどして、これからも学校間の連携を促していきます。											
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">平成28年度の実績</th> </tr> <tr> <td>小中交流会の開催数</td> <td>2回（中学校会場6月、小学校会場11月）</td> </tr> </table>				平成28年度の実績		小中交流会の開催数	2回（中学校会場6月、小学校会場11月）				
平成28年度の実績											
小中交流会の開催数	2回（中学校会場6月、小学校会場11月）										

整理番号 1-3-5	今日的な教育課題に対応した指導体制の充実を図ります		担当課 学校教育課								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業区分（評価）</th> </tr> <tr> <th>計画策定時</th> <th>中間評価</th> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>		事業区分（評価）		計画策定時	中間評価	B	B	<table border="1"> <tr> <th>具体的な取組みの例</th> </tr> <tr> <td>●いじめ防止対策 ●不登校支援の充実</td> </tr> </table>		具体的な取組みの例	●いじめ防止対策 ●不登校支援の充実
事業区分（評価）											
計画策定時	中間評価										
B	B										
具体的な取組みの例											
●いじめ防止対策 ●不登校支援の充実											
<table border="1"> <tr> <th>これまでの課題等</th> </tr> <tr> <td>不登校支援やいじめ防止対策の質の向上がこれまで以上に求められるようになっていきます。</td> </tr> </table>		これまでの課題等	不登校支援やいじめ防止対策の質の向上がこれまで以上に求められるようになっていきます。	<table border="1"> <tr> <th>今後の方向性</th> </tr> <tr> <td>全ての児童生徒がわかる授業づくりを進め、楽しく学校生活を送ることができるようにします。また、関係機関との連携をより一層強化し、新たな教育課題に対応していける強固な体制づくりを行います。</td> </tr> </table>		今後の方向性	全ての児童生徒がわかる授業づくりを進め、楽しく学校生活を送ることができるようにします。また、関係機関との連携をより一層強化し、新たな教育課題に対応していける強固な体制づくりを行います。				
これまでの課題等											
不登校支援やいじめ防止対策の質の向上がこれまで以上に求められるようになっていきます。											
今後の方向性											
全ての児童生徒がわかる授業づくりを進め、楽しく学校生活を送ることができるようにします。また、関係機関との連携をより一層強化し、新たな教育課題に対応していける強固な体制づくりを行います。											



整理番号 1-3-6	地域や児童生徒の実態をふまえた特色ある学校づくりを推進します		担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例	
計画策定時	中間評価	●特色ある学校づくり支援事業	
A	A		
これまでの課題等		今後の方向性	
各校で創意工夫した取り組みが進められています。		今後も各学校の取組を支援する事業を継続していきます。	
平成28年度の実績			
特色ある学校づくり支援事業取組テーマ ・野々市小学校 感性豊かな心を育む自然活動 ・御園小学校 大学との連携による体力づくりの推進 タブレット端末を活用した学習活動の開発 ・菅原小学校 地域とつなぐ菅原小 ・富陽小学校 「わかる・できる」を実感できる授業づくり ・館野小学校 子どもたちの協働的な学び合い活動の推進に向けて —タブレットを活用した学び合い活動の充実— ・野々市中学校 自問教育・緑あふれる学校づくり ・布水中学校 布水中学校ボランティア活動			

整理番号 1-3-7	教職員の資質向上に資する教育センター機能の充実を図ります		担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例	
計画策定時	中間評価	●対応力・指導力向上研修会の実施	
B	A		
これまでの課題等		今後の方向性	
不登校や発達障害に対する対応力・指導力向上研修の充実を目指します。学校現場での研修の充実と教職員の負担軽減のため、集合研修を削減することとしましたので、従来の成果指標「教育センターの研修講座の参加人数」は廃止しました。		学校を取り巻く環境の変化や学校の実情を踏まえて、これからも学校現場のニーズを踏まえた質の高い研修が行われるようにしていきます。	

整理番号 1-3-8	教職員の自主研究への支援を図ります		担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例	
計画策定時	中間評価	●特色ある学校づくり支援事業 ●学びの組織的実践推進事業 ●いしかわ道徳推進事業	
A	A		
これまでの課題等		今後の方向性	
県や市の指定を受け研究を推進し、その成果を市内全小中学校で共有しています。		各学校の教職員が意欲を持って研修ができるようこれからも支援を進めていきます。	
平成28年度の実績			
県指定校 小2校 ・ 学びの組織的実践推進事業（館野小3か年） ・ いしかわ道徳推進事業（野々市小1か年） 市指定校 中1校（野々市中1か年）			

基本目標 1 学校での教育の推進



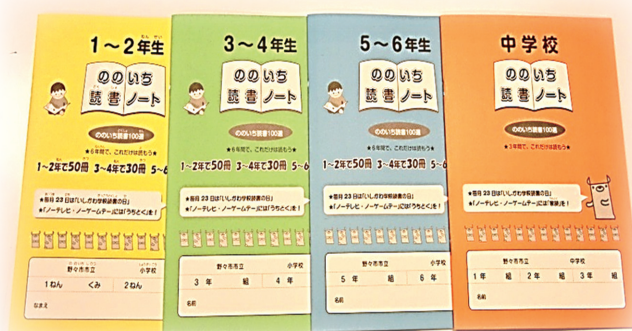
基本的施策 4 教育環境の充実

整理番号	想定される事業	事業区分（評価）		新規・継続・廃止
		計画策定時	中間評価	
1-4-1	学校図書の充実と利用の促進を図ります。	A	A	継続
1-4-2	心を豊かにする読書活動を推進します。	A	A	継続
1-4-3	学校図書館図書の学校間相互利用を推進します。	B	A	継続
1-4-4	教育支援センター機能の充実を図ります。	B	B	継続
1-4-5	デジタル教材を活用した授業を推進します。	B	B	継続
1-4-6	教職員が子どもと向き合う時間の確保を図ります。	B	B	継続
1-4-7	校務支援システムの構築を推進します。	C	C	継続
1-4-8	学校教育施設（小学校・中学校、給食センター）の計画的整備を推進します。	B	B	継続

整理番号 1-4-1	学校図書の充実と利用の促進を図ります					担当課 学校教育課	
事業区分（評価）			具体的な取組みの例				
計画策定時		中間評価		●ののいち読書100選の選定・啓発 ●ののいち読書ノートの作成・活用			
A		A					
成果指標	指 標 名		単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	「国の示す学校図書館図書標準」に対する整備率		%	92	111	100	学校図書の充実
これまでの課題等				今後の方向性			
ののいち読書100選の読書量を増やすことが必要です。				国の示す学校図書館図書標準に対する整備率を維持しながら、図書の入れ替えを進めるなど、読書量を増やすための取組を継続して進めていきます。			



ののいち読書100選パンフレット



ののいち読書ノート

整理番号 1-4-2	心を豊かにする読書活動を推進します					担当課 学校教育課
事業区分(評価)		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価					
A	A	●ボランティアによる読み聞かせ活動 ●小中学校における朝読書の実施				
成果指標	指標名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	1日30分以上読書をする。	%	38	29	50	全国学力・学習状況調査
これまでの課題等			今後の方向性			
読書に親しむ児童生徒を増加させることが必要です。			読書に親しむ機会を増やすことで不読者が減るよう努めます。			

整理番号 1-4-3	学校図書館図書の学校間相互利用を推進します					担当課 学校教育課
事業区分(評価)		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価					
B	A	●学校司書事務連絡会の実施				
これまでの課題等			今後の方向性			
学習活動で図書の利用を促進する必要があります。			市立図書館と各学校及び学校間の連携を図ります。			



学校司書事務連絡会

整理番号 1-4-4	教育支援センター機能の充実を図ります					担当課 学校教育課
事業区分（評価）			具体的な取組みの例			
計画策定時		中間評価				
B		B		●ふれあい教室の開催 ●相談員の配置		
成果 指標	指 標 名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	相談員の配置数	人	—	7	10	学校教育課調べ
これまでの課題等				今後の方向性		
教育相談に対応するための人員を確保する必要があります。				教育相談員の有効活用が進むように保護者への周知を図ります。また、教員と教育相談員との連携がより一層進むよう取組を充実します。		

整理番号 1-4-5	デジタル教材を活用した授業を推進します					担当課 学校教育課
事業区分（評価）			具体的な取組みの例			
計画策定時		中間評価				
B		B		●コンピュータ教室の整備事業 ●電子黒板、タブレットの導入 ●デジタル教科書の活用		
成果 指標	指 標 名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
これまでの課題等				今後の方向性		
パソコン教室のみならず、普通教室においてもICTを活用した授業ができるよう整備を進めていく必要があります。				電子黒板、タブレット等普通教室の整備を年次的に進めていきます。また、新学習指導要領の実施に向けて、プログラミング教育の在り方について検討していきます。		

整理番号 1-4-6	教職員が子どもと向き合う時間の確保を図ります		担当課 学校教育課								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業区分（評価）</th> </tr> <tr> <th>計画策定時</th> <th>中間評価</th> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>		事業区分（評価）		計画策定時	中間評価	B	B	<table border="1"> <tr> <th>具体的な取組みの例</th> </tr> <tr> <td> ●事務負担軽減の取組 ●教職員研修講座の精選 ●部活動休養日の設定 </td> </tr> </table>		具体的な取組みの例	●事務負担軽減の取組 ●教職員研修講座の精選 ●部活動休養日の設定
事業区分（評価）											
計画策定時	中間評価										
B	B										
具体的な取組みの例											
●事務負担軽減の取組 ●教職員研修講座の精選 ●部活動休養日の設定											
<table border="1"> <tr> <th>これまでの課題等</th> </tr> <tr> <td>教職員の長時間勤務の解消が大きな課題となっています。</td> </tr> </table>		これまでの課題等	教職員の長時間勤務の解消が大きな課題となっています。	<table border="1"> <tr> <th>今後の方向性</th> </tr> <tr> <td>タイムレコーダーにより教職員の勤務状況を正確に把握し、健康管理に役立てます。また、各学校での業務改善の取組を市として支援していきます。</td> </tr> </table>		今後の方向性	タイムレコーダーにより教職員の勤務状況を正確に把握し、健康管理に役立てます。また、各学校での業務改善の取組を市として支援していきます。				
これまでの課題等											
教職員の長時間勤務の解消が大きな課題となっています。											
今後の方向性											
タイムレコーダーにより教職員の勤務状況を正確に把握し、健康管理に役立てます。また、各学校での業務改善の取組を市として支援していきます。											

整理番号 1-4-7	校務支援システムの構築を推進します		担当課 教育総務課 学校教育課						
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業区分（評価）</th> </tr> <tr> <th>計画策定時</th> <th>中間評価</th> </tr> <tr> <td>C</td> <td>C</td> </tr> </table>		事業区分（評価）		計画策定時	中間評価	C	C		
事業区分（評価）									
計画策定時	中間評価								
C	C								
<table border="1"> <tr> <th>これまでの課題等</th> </tr> <tr> <td>教職員の多忙化を解消し、教材研究や子どもと向き合う時間を確保することが求められています。</td> </tr> </table>		これまでの課題等	教職員の多忙化を解消し、教材研究や子どもと向き合う時間を確保することが求められています。	<table border="1"> <tr> <th>今後の方向性</th> </tr> <tr> <td>校務支援システムを構築することにより、教職員の業務の軽減と効率化、教育活動の質の改善を図ります。</td> </tr> </table>		今後の方向性	校務支援システムを構築することにより、教職員の業務の軽減と効率化、教育活動の質の改善を図ります。		
これまでの課題等									
教職員の多忙化を解消し、教材研究や子どもと向き合う時間を確保することが求められています。									
今後の方向性									
校務支援システムを構築することにより、教職員の業務の軽減と効率化、教育活動の質の改善を図ります。									
<table border="1"> <tr> <th>システム導入により期待される効果</th> </tr> <tr> <td> ・氏名、住所、出欠状況、成績など一度入力したデータを、自動的に転記、引用することができるようになり、通知表、出席簿、指導要録などの帳票作成にかかる時間や労力を削減することができます。また、転記ミスがなくなり、教職員の精神的な負担軽減も期待されます。 ・児童生徒の学校生活の様子や気づいたことなどを、日々、記録することで、通知表や指導要録の所見作成に活用することができます。また、担任以外の複数の教職員から見た多様な所見を記録することで、担任が見えない児童生徒の様子を把握することができます。 </td> </tr> </table>				システム導入により期待される効果	・氏名、住所、出欠状況、成績など一度入力したデータを、自動的に転記、引用することができるようになり、通知表、出席簿、指導要録などの帳票作成にかかる時間や労力を削減することができます。また、転記ミスがなくなり、教職員の精神的な負担軽減も期待されます。 ・児童生徒の学校生活の様子や気づいたことなどを、日々、記録することで、通知表や指導要録の所見作成に活用することができます。また、担任以外の複数の教職員から見た多様な所見を記録することで、担任が見えない児童生徒の様子を把握することができます。				
システム導入により期待される効果									
・氏名、住所、出欠状況、成績など一度入力したデータを、自動的に転記、引用することができるようになり、通知表、出席簿、指導要録などの帳票作成にかかる時間や労力を削減することができます。また、転記ミスがなくなり、教職員の精神的な負担軽減も期待されます。 ・児童生徒の学校生活の様子や気づいたことなどを、日々、記録することで、通知表や指導要録の所見作成に活用することができます。また、担任以外の複数の教職員から見た多様な所見を記録することで、担任が見えない児童生徒の様子を把握することができます。									

整理番号 1-4-8	学校教育施設（小学校・中学校、給食センター）の計画的整備を推進します					担当課 教育総務課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価	●学校教育施設の工事等				
B	B					
成果指標	指 標 名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	小中学校の大規模改造実施率	%	57	85	100	快適な環境の学校の増加
これまでの課題等			今後の方向性			
児童生徒数増加に対する必要教室数確保への対応。 学校施設耐震化の早期実施。（平成28年度耐震化率100%達成済）			児童生徒数の増加を注視し、必要教室数が不足すると見込まれる場合には、新增築等により対応していきます。また、より良い教育環境の確保のため、計画的に小中学校の工事や修繕を行います。なお、平成28年度より、平成30年度の完了を目指し、館野小学校大規模改造事業を実施しております。本事業の完了をもって、全ての小中学校の教室に冷暖房設備の設置を完了する予定です。			
これまでの実績						
富陽小学校増築・大規模改造事業（平成22～24年度） 小学校給食センター施設整備（平成22～26年度） 布水中学校大規模改造事業（平成24～26年度） 野々市中学校地震補強・大規模改造事業（平成24～28年度） 御園小学校大規模改造事業（平成26～28年度） 野々市小学校施設整備事業 ※増築（平成28年度） 館野小学校大規模改造事業（平成28年度～）平成30年度完了予定						



野々市小学校増築（H29.3竣工）



小学校給食センター新設（H26.7竣工）

基本目標 1 学校での教育の推進



基本的施策 5 地域に根ざした学校づくり

整理番号	想定される事業	事業区分（評価）		新規・継続・廃止
		計画策定時	中間評価	
1-5-1	地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習を推進します。	A	A	継続
1-5-2	地域の方など外部講師を活用した地域教育を推進します。	B	A	継続
1-5-3	学校から地域への情報発信を推進します。	B	A	継続
1-5-4	積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを推進します。	A	A	継続

整理番号 1－5－1		地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習を推進します					担当課 学校教育課	
事業区分（評価）			具体的な取組みの例					
計画策定時		中間評価		●教科・総合的な学習の年間計画への位置づけ ●小学校社会科資料集の作成 ●わくワーク体験の推進				
A		A						
成果 指標	指 標 名		単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明	
	授業で市内施設を活用した数		箇所	—	58	80	学校教育課調べ	
これまでの課題等				今後の方向性				
市で作成した資料等や市内の施設を活用した学習が全ての学校で行われています。				今後も取組を継続していきます。				
平成28年度の実績								
わくワーク体験受入事業所数 156施設								

整理番号 1-5-2	地域の方など外部講師を活用した地域教育を推進します					担当課 学校教育課
事業区分(評価)		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価					
B	A	●学校の応援団の登録 ●総合的な学習での地域をテーマにした学習の推進				
成果指標	指標名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	地域の方々と連携した授業の回数	回/年	7	55	56 (14から変更)	学校教育課調べ
これまでの課題等				今後の方向性		
学校が要望した内容について、地域の方々がゲストティーチャーとして授業の支援を行うなど、「学校の応援団」の取組が進んでいます。成果指標の目標値については、現状値が当初の目標値を既にクリアしているので、上方修正しました。				今後も取組を継続していきます。		

整理番号 1-5-3	学校から地域への情報発信を推進します					担当課 学校教育課
事業区分(評価)		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価					
B	A	●学校ホームページの公開 ●学校広報の地域への配布 ●学校公開				
これまでの課題等				今後の方向性		
学校の状況を家庭や地域に発信しようと、各学校がホームページの更新に努めています。				担当者の講習会を開くなど、各学校が効率的、効果的に情報発信がしていけるようにします。		



整理番号 1-5-4	積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを推進します					担当課 学校教育課
事業区分（評価）		具体的な取組みの例				
計画策定時	中間評価	●学校評議員制度の導入 ●地域ボランティアの活用 ●学校公開の広報活動				
A	A					
成果指標	指標名	単位	計画策定時	現状値	目標値	指標の説明
	道徳授業の保護者への公開回数	回/年	7	7	14	学校教育課調べ
これまでの課題等			今後の方向性			
全小中学校での道徳授業の公開や、学校公開期間を設定するなどして「地域に開かれた学校づくり」が進められています。			これからも学校公開の機会を提供するとともに、地域の方々の声を学校運営に活かし、学校から地域に向けて発信するなどして、「地域とともにある学校づくり」を進めていきます。			

